

〔東路のつと〕翌日市川といふわたりの折ふし、雪風ふきてしばし休らふ間に、むかひの里にいひあはする人有て、馬どものりもてきて、やがて舟渡りして、あしの枯葉の雪うちはらひ、善養寺といふに落つきぬ、

〔官中秘策二十九〕關東關所之制令

松戸 市川略 中

一相定船場之外、脇々にて濫に往還のもの不可渡之事略 中

元和二年八月日

奉行

〔相馬日記〕廿八日、文化十四年中略市川の渡は、吾妻鏡や、仙覺りしが万葉庭訓に、太井川としるせし河なり、俗には江戸川とよぶ、吾黨小竹茂仲のをちが説に、江戸河といふは、舟人の詞よりあやまれる名なり、そは下總の境、關宿わたりより、此川筋を経て江戸へ通ふがゆゑに、舟人のわたくしに、さはよびけるを、近頃は正しき名ぞとおもへるものもすくなからずといへり、舟をあがれば、武藏國の葛西領なり、市川の關を過るころは、雨もやみぬ、

近江國
勢多渡

〔日本書紀神功〕爰伐新羅之明年、中略命武内宿禰和珥臣祖武振熊、卒數萬衆、令擊忍熊王、中略忍熊王逃無所入、則喚五十狹茅宿禰而歌之曰、伊裝阿藝、伊佐智須區禰、多摩積波屢、于知能阿會、餓勾夫菟智能伊多氏、於破孺破珥倍迺利能、介豆岐齊奈、則共沈瀨田、濟而死于時、武内宿禰歌之曰、阿布彌能彌齊多能和多利珥伽豆區苦利梅珥志彌曳泥塵、異枳迺倍呂之茂、於是探其屍而不得也、然後數日之出於菟道阿、阿一作河武内宿禰亦歌曰、阿布彌能彌齊多能和多利珥伽豆區苦利多那伽泓須疑氏、于泥珥等邈倍菟、

〔釋日本紀和歌〕齊多能和多利珥勢多

〔平治物語〕三、賴朝遠流事附盛安夢合事